

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般小売店〔生花〕 （経営者）	・卒業式、入学式シーズンとなり、例年、生花が一番売れる忙しい時期となる。ただ今年は、例年注文があった卒業式用の何百本という花の注文が、不景気による経費の削減等で減らないか、また同業他社へ流れないか等の不安要素もある。卒業式、入学式の個人の花の消費をどのように促すかが課題であり、しっかり対策できれば良くなる。
	やや良くなる	百貨店（営業企画担当）	・少しずつ高額品に動きが出ている。3月には九州新幹線が全線開業するため、人の動きが活発になり、街全体が活性化される。
		スーパー（経営者）	・年度替わりの異動等により、新しい需要が発生すれば良くなる状況となっている。
		スーパー（店長）	・1年前の売上が一番底で、今は少しずつ景気が回復している。底をついたという感じで、売上は順調に推移している。売り方を工夫すれば客の反応もあるが、依然、客は価格に敏感である。衣料品は寒波の影響もあり、冬物衣料が断続的に売れており、寒波がまだ続けば、まだ伸びる可能性がある。
		スーパー（店長）	・社会行事関連の新入学や卒業あるいは就職、進学への祝い需要が発生し、前年以上に売上が伸びているトレンドがあり、大いに期待ができる。
		コンビニ（経営者）	・目的買いの客が大半であり、来客数の増加はなかなか見込めないが、客単価が上がっており、明るい兆しもみえてきている。
		家電量販店（総務担当）	・3月末終了のエコポイントの駆け込み需要が期待できる。
		乗用車販売店（従業員）	・他社との競争は激しくなるが、決算時期を迎え、攻勢をかけて販売促進を行なうため、いくらか良くなる。
		乗用車販売店（総務担当）	・12月末に新型車が投入され、5月にも新型車の発売が予定されている。新型車の魅力を客に訴求し、来場者数及び販売台数の増大を図るため、売上、利益は多少伸びる。
		自動車備品販売店（従業員）	・地上放送のデジタル化に伴い、地上デジタル放送対応チューナーやナビの動きが活発になる。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・地域的にも寒い地域であり、寒い時期は客足が鈍くなる。これから3か月先は気候が緩やかになり、客の来店頻度は上がり、売上は良くなる。また新規契約もあるので、前年と比べるとその売上も見込まれ、良くなる。
		高級レストラン（専務）	・九州新幹線の全線開業により景気はかなり良くなる。
		観光旅館組合（職員）	・卒業旅行等のシーズンとなり、気候的にも過ごしやすくなるため来客数は増える。
		都市型ホテル（副支配人）	・九州新幹線の全線開業や駅への百貨店進出等の影響から、団体客の予約が2、3月に入ってきており良くなる傾向となっている。
		ゴルフ場（従業員）	・3月に九州新幹線の全線開業のイベントを行うため、その効果が出て、良くなる。しかしながら、それに伴う予約はまだ出ていないので、若干の不安もあるが、大きく期待している。県内の景気は依然として厳しい状況が続くが、九州新幹線の全線開業により少なからず上向く。
		美容室（店長）	・現在の店の状況が最悪なので、これ以上は悪くならない。2、3か月先は少しは良くなる。
その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・3月以降は気候的に暖かくなり、客である在宅高齢者のサービスキャンセル率が大幅に低下することが考えられる、客が増え、売上の増加も期待できる。		
変わらない	商店街（代表者）	・特に好転するような理由はないので、今と変わらない状況が続く。	
	商店街（代表者）	・現状の悪い状況が好転する要素が全くみつからない。この悪い状況のまま続く。	
	商店街（代表者）	・当店は割と年配の客が多く、年金等に大きく左右される。年金は定額であり、増額する見込みはないため、消費に回すことを警戒する状況が見受けられる。おそらく今後も変化はない。	
	商店街（代表者）	・公務員や大企業の給料が下げ止まりとなってきている。それに伴い、消費意欲が少しは向上すると期待するが、大きな変化はない。	
	一般小売店〔精肉〕（店員）	・良くなる要素が見当たらないため、今後も今の状況が続く。	
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・季節的に活動しやすい時期となり、例年、客の出入りが増える。高額な贈答品が出るように対策する必要がある。	

百貨店（売場主任）	・政局が安定せず消費者が安心して購入できる環境にならないため、今後も良くならない。
百貨店（営業担当）	・買上率、買上客数は依然マイナス基調であり、消費の力強さは感じられない。クリスマスケーキやおせちの売上は前年並みであったが、商品単価の低下傾向は続いている。
百貨店（営業担当）	・お買得、ちょっと良い物を自分用に購入する客は多く、ギフト解体催事には敏感に反応する客が多い。来客数が多く催事場への入場制限も実施し、客の熱気を感じた。防寒衣料や冬物衣料についてもセールが好調であり、買物への慎重な姿勢は続いている。また寒波の影響が、近くの店舗を利用する人が多く、サテライト店が好調である。
百貨店（売場担当）	・競合店が前年割れをする状況になく、百貨店は厳しい状況となっている。客単価、1品単価、買上率は上がっているが来客数が減少している。比較的高い商品が売れていることや入店客が良く買っていることで前年をキープしているが、この先客が少し減り、単価に変動があれば、売上が落ちる可能性もある。天候要因が読めないが、今後も変わらない。
百貨店（営業企画担当）	・経済環境の好転や消費拡大の望みも薄く、現状の状態が続く。
百貨店（業務担当）	・消費者の節約疲れにより、しばらくは必要な物への消費は幾分期待できる。一方で高額品の動きは限られたものとなる。
百貨店（企画）	・円高の影響は引き続きあるものの、企業業績は概ね回復基調にある。しかし、個人消費の源となる雇用の回復が一向に進まないなか、国の景気対策も不透明な状況下で消費意欲が高まる兆しはみえない。
スーパー（店長）	・今は寒さの影響で鍋物やおでん材料等の冬物商材が良く動いているが、寒さが和らいだ頃には元の悪い状況に戻るのではないかと懸念している。気候の影響を受けやすい消費動向が続いている。
スーパー（店長）	・食品はデフレからインフレに変わる可能性があり、単価の上昇を期待しているが、自動車のエコカー減税や家電のエコポイント制度等の終了により、マイナスになる可能性もある。また企業業績は上がってきたが、雇用が依然厳しいため、消費がマイナスとなる可能性もあり、いずれもプラス要因とマイナス要因が相殺されて変わらない。
スーパー（店長）	・価格志向が相変わらず強い。燃料代の値上がりの影響が、余分な買物をしない傾向が顕著となっており、今後もこの状況が続く。
スーパー（店長）	・今後も円高が続けば輸出産業の業績悪化につながり、個人消費は更に冷え込みかねない。需要不足が継続的に続き、食品等の店頭価格の値下げが続く可能性がある。
スーパー（総務担当）	・来客数は前年並みに推移しているが、客単価が上がらない状況が続いており、今後も1回の買物で使用する金額は変わらない。
スーパー（業務担当）	・小売業は可処分所得の増減が売上に影響し、景気対策が明確にならなければ、一般消費者の購買動向は予測しづらい状況である。現状では大きな変化はない。
コンビニ（エリア担当）	・大企業の給与は増加に転じているが、店舗周辺の中小企業は以前と変わらず厳しい状況である。いつもコンビニを利用していた客もスーパー等の安い弁当を買っている様子が見受けられる。今後もこの状況が続く。
衣料品専門店（店長）	・気温の低い日が続いており、客の出足が途絶えている。しばらく大きな変化はない。
衣料品専門店（取締役）	・春夏の衣料品は単価が落ちるため、数を売らなければならない。ただ、春夏は楽しい商材が増えることで、幅広い客層に1枚でも多く売ること現状維持はできると考えている。ただ、今より良くなる材料は何もない。あとは企業努力をすしかなく、商品の補充を考えている。
家電量販店（店員）	・3月のエコポイント制度の終了に伴い、最終的な駆け込み需要があり、若干プラスになる。ただ、その反動減は避けられず、最終的にはプラスマイナスでゼロとなり、変わらない。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・冬に対応する生活必需品の販売が好調であるとの話を客から聞くことが多い。
高級レストラン（支配人）	・営業にもよるが、来客数の増加が見込めず現状が良くなる要素がみえない。
スナック（経営者）	・街全体が開散としていて活気が感じられず、この状態はまだ続く。
その他飲食〔居酒屋〕（店長）	・九州新幹線の全線開業の影響で街中がとても張り切っており、これから春の催し物に期待できるが、現状ではまだ変わらない。

	観光ホテル（総務担当）	・3月には九州新幹線が全線開業するため、宿泊を中心に、現在の調子を持続できる。
	旅行代理店（従業員）	・海外旅行の予約は前年比でやや増加している。寒さの影響か、ハワイやグアム等のリゾート地が人気である。国内旅行は前年を上回るが、学生旅行が例年より少ない。
	タクシー運転手	・閉店する百貨店の跡地の活用が決まっていない。また、商店街で空き店舗プロジェクトというものをやっているが、ここもなかなか思うような集客ができていない。この先は不透明である。
	通信会社（業務担当）	・2月から春のキャンペーンがスタートするが、スマートフォンの品不足解消には目途が立たず、他の商品の販売はさらに厳しくなる。
	通信会社（企画担当）	・季節要因で販売量は増えそうであるが、底上げとなるような要因は見当たらない。
	テーマパーク（職員）	・例年2月はスポーツキャンプ等により週末は高稼働であるが、今年は1月に発生した鳥インフルエンザの影響が懸念されるため、現状と変わらない。
	ゴルフ場（支配人）	・ゴルフ場料金の値引き競争は収まる気配がなく、プレー料金は下降の一途をたどっている。来場者を例年並みに確保したとしても売上は落ちる。厳しい経営環境にある。
	理容室（経営者）	・3月後半は例年通り客の動きが一時的にはあるが、全体的にまだ落ち込んでいる状態であり、明るい兆しはみられない。サービス業は、景気が上向きになるような要素が全くない。
	その他サービスの動向を把握できる者 〔フィットネスクラブ〕（営業）	・景気は若干下向きのようなようであるが、九州新幹線の全線開業と地域イベント開催により、下向きにも上向きにもならないくらいで推移する。
	設計事務所（所長）	・新しい打ち合わせが増えているわけではない。仕事量は相変わらず少ない。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・2、3か月先は卒業、入学、就職と出費が多い月となり、食に対する出費はかなり抑えられる。そのため、売上はあまり期待できない。
	商店街（代表者）	・消費税の増税や将来の年金需給者年齢の引上げ等、消費者には明るい材料が見当たらず、商店街は厳しい状況が続く。
	百貨店（総務担当）	・新しく百貨店が開業する等、福岡商圏がますます魅力を増すなか、個々の商業施設、テナントの努力では当地区の景気回復は大変厳しい。
	百貨店（営業担当）	・春闘や雇用の問題等が明確にならないと、個人消費はなかなか上向かない。一部の層についてはやや持ち直してきているが、それ以外のところの客の来店が非常に不安定でマイナス要因となっている。
	百貨店（営業担当）	・鳥インフルエンザや火山の噴火により、客が外出を控える状況にあり、当店の来客数にも大きく影響が出ている。したがって、今後の景気はやや悪くなる傾向が強い。
	スーパー（総務担当）	・雇用環境の改善見通しが立っておらず、消費を控えた生活防衛が更に進むと考えられる。一方、来客数の増加を図り販売促進の経費がある程度必要となるが、収益バランス悪化の懸念が残る。
	スーパー（経理担当）	・いつも今月が底だと思わされるが、それ以上に悪くなることが続き、非常に悪かった前年を更に下回る状況が続いている。負のスパイラルに陥ったかのように先がみえない。
	コンビニ（販売促進担当）	・不安材料として原材料、特に小麦粉、卵等の価格が上がっている。また物流も燃料費のコストが上がっている。予算に達しても利益はそこそこであり、やや厳しくなる。
	衣料品専門店（店長）	・直接の影響はないが、鳥インフルエンザや火山の噴火等暗いニュースばかりで、客の買物に対するマインドの低下が懸念される。春に向かって明るくなる雰囲気が必要である。
	衣料品専門店（店員）	・新しい百貨店の新規オープンで競争が激化する。来客数が増えるとは考えにくく、厳しい状況となる。
	家電量販店（店員）	・家電のエコポイント制度が見直されたが、その対象商品が非常に売れなくなった。年が変わって2011年になっても動向は全く変わらず、エコポイント対象商品の売上が上がらない。特に液晶テレビが苦戦している。今後、改善するような見込みは見当たらず、かなり苦戦し、悪くなる。
	住関連専門店（経営者）	・毎月のキャンペーンはここ1年横ばいの状況で底打ち感があるが、店舗での販売は年々厳しくなっている。大口の商談がなかなかなく、設備等での置き家具需要も期待できない。
	その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・九州新幹線の全線開業が目前であるが、空港を主体に商品の納入をしている業者への影響が不明である。ただ好転する兆しもないため、少なからず売上は落ちる。

		観光型ホテル（スタッフ）	・4月に統一地方選挙を控え、宴席が少なくなる可能性が大きい。宿泊に関しては2月のイベントで増えるが、それ以降は活況を呈していたNHK大河ドラマの影響も落ち着き、伸びる可能性がない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・統一地方選挙に伴い企業の歓送迎会や業務出張等の動きが鈍くなるため、今後はやや悪くなる。
		タクシー運転手	・とにかく消費者の財布のひもが固い。少しでも節約しようという動きが顕著になっている。高齢者の病院通いでも少しでも節約しようする状況が出ている。
		タクシー運転手	・ようやく県内外からの人の動きが出始めたところに、鳥インフルエンザの影響で人の動きが制限され、口蹄疫に続き大変なことになりそうである。
		タクシー運転手	・鳥インフルエンザ、火山等の悪影響がこれからもっと出てくる。全体的には景気は悪くなる。
		美容室（経営者）	・2、3年前からずっとやや悪くなる状況が続いている。せめて現状維持、少しでも良くなることを期待しているが、このまま悪い状況が続けば、いよいよ死活問題になるところまできている。
		住宅販売会社（従業員）	・土地の売買に関する問い合わせが今月、先月と減っている。例年、新年度になると土地の動きは少なくなるが、今年は非常に不安を感じている。社会情勢上やはり土地の取得をすることが少なくなっている。
		住宅販売会社（従業員）	・来年度予算によっては増税となり家計支出が増え、住宅購買意欲が減退する材料となり、厳しい状況が続く。
	悪くなる	一般小売店〔青果〕（店長）	・野菜相場高騰の影響もあり、2～3か月は厳しい状態が続く。また火山噴火や鳥インフルエンザの終息等がはっきりみえず、それに対する政府及び県の援助がどうなるのかみえないところもあり、先行きは不透明である。
		衣料品専門店（総務担当）	・百貨店の閉鎖が決まり、商店街の集客装置が一つなくなることで、商店街の業況は非常に悪化する。
		通信会社（営業担当）	・鳥インフルエンザ、火山の噴火、あるいはこれらの影響で各スポーツ団体のキャンプのキャンセル等が増えており、今後良い方向にはまずならない。ただ早くこれらの問題が解決し、景気が良くなることを願う。
		通信会社（総務担当）	・景気は季節要因で悪化しており、業績もますます悪化していく。自助努力で業績の向上を目指したいところであるが、消費者の動きが何分にも鈍く、更なる客単価の落ち込みも懸念される状況である。雇用についても低調で、個人消費は依然、低迷して推移する。
企業動向関連	良くなる やや良くなる	-	-
		家具製造業（従業員）	・高級輸入家具の価格が為替の影響で下がりつつあるなか、これまでの低価格商品や品質に多少問題があっても価格ありきで購入していた客が少し高額でも品質がしっかりとした家具を購入している。マンションの供給も持ち直ししており、回復の兆しが少しみられる。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・年度末を迎え、残予算対応が増えると見込まれ、やや良くなる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・特定業種からの引き合い件数が増えており、今後に期待したい。景気は持ち直す方向である。
		精密機械器具製造業（従業員）	・前年も装置を導入したが、3月にも装置を導入し、生産アップを図っていく。
		金融業（調査担当）	・駅ビルの開業による期待感に市場のマインドは盛り上がっている。大きな景気上昇要因であり、景気はこれからやや良くなる。
		新聞社（広告）	・九州新幹線の全線開業等広告出稿に結びつきやすい話題があり、回復傾向が続く見込みである。
		その他サービス業〔物産リース〕（役員）	・足元での設備投資は足踏み状態であるが、小口案件は増加傾向にあり、一部半導体関連企業での増産対応の投資、医療機関等の大型投資の引き合い等が出てきており、若干上向きに転じる。
	変わらない	農林水産業（経営者）	・鳥インフルエンザ流行の終息具合にもよるが、2、3月は例年以上に非常に厳しい月となる。風評被害に加え、原料の集荷にも余計な費用を要している。工場稼働に必要な原料を集荷できるかについても大いに不安がある。3月は異動や行楽シーズンのスタート月であるので例年期待しているが、鳥インフルエンザの悪影響が長引けば3月にも大きな影響が残る。
		農林水産業（従業者）	・飼料価格が非常に高騰しており、今後も下がるとは言えない状況である。また、牛肉の消費についても厳しい状況であるので、景気の悪さは変わらない状況である。

	食料品製造業（経営者）	・ いろんな工夫やアイデアは頭打ちの状態である。何かプラス要因が出てきても減少分を補う、またはプラスにするような要因は皆無である。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	・ 機能性食器に注目が集まり、普段使いの食器類がほとんど動いていないのではないかと危惧している。今後、進学等の時期となり、若干は良くなるのではないかと期待しているが、現状をみる限りあまり変わらない。
	鉄鋼業（経営者）	・ 建築物件を中心に需要の減退は底を打っている。マンションや中小規模の店舗、病院、物流倉庫等の新規物件が増えていく。建材製品の先高感から建築物件を対象に前倒しに材料が発注されたものもありそうで、実需の見極めが必要であるが、基調の変化は明らかではない。
	一般機械器具製造業（経営者）	・ 仕事の絶対量が少ないというのに、コスト競争を強いられている。そういう状況のなかでは回復は望めない。
	電気機械器具製造業（経営者）	・ 半導体関連の動きとしては安定した状態が続いており、このまま今の状況で推移する。変動はあるかもしれないが、変動があるとしても大きな影響はなく、非常に安定した状況が続く。
	電気機械器具製造業（経営者）	・ 景気回復につながる要因が見当たらない。受注価格の低下や新卒の就職状況が非常に厳しくなっていること等マイナス要因に振り回されており、当分景気は変わらず現状維持でなんとかいく。
	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・ 3月までの内示数を見ると、横ばい傾向が続く。
	輸送業（従業員）	・ 今後、消費者の購買意欲をかき立てるような国の政策もなく、仕事量は現状のまま推移する。
	輸送業（総務）	・ ジワジワと燃料価格が上がっており、苦しい状況は変わらない。
	輸送業（総務担当）	・ 預かっている荷物全ての荷動きがあまり良くない。特に明るい材料が見当たらず、しばらく今のままで推移する。
	金融業（営業）	・ 取引先の製造業は増産しており、当初は不透明であった4月以降の受注も下請企業に入っている様子である。将来は、工場の海外移転等の事態も考えられるが、当面は好調を維持する。また、求人面では大手製造業が単価を上げている。
	金融業（得意先担当）	・ 現状では条件変更の申し出、受け付けが多い。その予備軍として電話等による問い合わせ等も頻繁にあり、この状況はしばらく続く。当面は現状の状況から変わらない。
	不動産業（従業員）	・ 商業施設の売上がほぼ前年並みで推移しており、今後もこの傾向が続く。
	広告代理店（従業員）	・ 身の回りの状況は決して良くない。売上が伸びするための投資はなく、売上が伸び、利益が出れば投資するという状況である。
	広告代理店（従業員）	・ この3か月の新聞折込枚数は前年比100～101%の間で推移している。前年の受注枚数が最悪の水準だったので、下限で止まるとは言え、回復の兆しを感じられない。不動産や百貨店、流通業界の主要チラシが増加する話はどこからも聞こえてこない。
	経営コンサルタント	・ 末端のコンサルタントの業界は、仕事が縮小気味で、これが急速には回復しない。今のような状態が当分は続く。
	経営コンサルタント（代表取締役）	・ 鳥インフルエンザで被害を受けたり、火山が噴火したりとマイナスの要因が多く、厳しい状況が続く。九州新幹線の全線開業の影響は大きくプラスになる。
	経営コンサルタント（代表取締役）	・ 業況が回復している取引先もあれば、投資をやや抑え始めている取引先もあり、総じて大きな変化はない。
やや悪くなる	建設業（従業員）	・ ここ最近は見積案件が減少し、大変厳しい。3か月先も大型物件がなく、住宅着工率も停滞している。企業も設備投資を見合わせており、景気は低迷したままである。
	通信業（職員）	・ 前年度と比較すると、今年度は官庁情報通信工事の発注量が落ち込むことが予想され、厳しい状況となる。
	金融業（営業担当）	・ 取引先の設備工事等の中小企業は、採算の合わない発注工事が多く、利益面を考慮した選別受注を実施すると仕事がないう状態が続いている様子である。年度末にかけた受注もまだ見通せない状況であり、厳しい。
悪くなる	建設業（社員）	・ 年度末を向かえ、手持ちのある業者と手持ちが完了した業者との差が表れてくる。民間工事に期待できない現在は、官公庁の繰越工事への期待しかないが、一部の業者を潤すだけになってしまう。

	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・市町村の建設関係や調査、計画の新年度予算は、問い合わせや見積依頼の状況からみると、予算の金額が減少している。今年度追加発注の業務についても、予算額が従来の業務の半分以下というものも見受けられることから、建設や調査計画の発注が減少することが予測され、景気は更に悪くなる。	
雇用 関連	良くなる やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・決算が上向いている企業が多く、年度末での人材を強化する企業が増える。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・九州新幹線の全線開業に伴うイベントが各地で開催され、地域が活性化される。したがって、求人及び求職も活発に動くことが期待される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・九州新幹線全線開業による地元企業への波及効果が期待されるが、一方で福岡への一極集中が進むことによる人材の流出も懸念される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・3月に九州新幹線が全線開業し、関西地区からの観光客が増える。また九州全体への経済波及効果も期待され、景気が良くなると期待される。
		職業安定所（所長）	・新卒及び一般求人増加の傾向がみられる。
		職業安定所（職員）	・直近の求人状況は新規求人、有効求人とも前年同月比でプラス傾向を示している。新規求人倍率は7か月連続で1倍を超えており、有効求人倍率も0.69倍となっている。また、九州新幹線全線開業等少し明るい材料もある。
		職業安定所（職員）	・企業間で業況に差はあるものの、企業への訪問等の状況を見ると以前より業況の改善がみられる企業が増えている印象がある。また、求人数もここ数か月前年同月比で増加しており、不透明な部分はあるが、改善傾向で推移する。
	学校〔専門学校〕（就職担当）	・採用担当者レベルでは増員の希望が多いように感じられる。ただし、経営陣の判断はまだ慎重かもしれない。	
変わらない	変わらない	人材派遣会社（社員）	・新年度に向けて、人を増やすという話は聞かれない。派遣が終了になった場合、今の人員で対応したり、パートを増やすという企業が多い。フルタイム勤務を希望する人には厳しい状況が続く。
		人材派遣会社（社員）	・大型の派遣先が新年度から派遣社員を直接雇用に切替える予定である。派遣会社への打撃は大きい。
		新聞社〔求人広告〕	・新卒を含めた求人が低調ななか、3か月の短いスパンで回復はしない。
		職業安定所（職員）	・企業の雇用動向は上向きつつあるが、まだ限定的な範囲であり、新規学校卒業者の内定率が低いため、就職できない場合、新規に求職者が増加する可能性がある。また、大型商業施設の撤退等により離職者が増加することが考えられ、先行きは不透明である。
		民間職業紹介機関（社員）	・派遣依頼は短期的な案件が増加しているが、紹介のみであったり、2、3か月のみの短期的な依頼であったりと、長期的な依頼ではない。ただ、派遣契約の終了数は減少傾向にある。
		学校〔大学〕（就職担当者）	・人事担当者との会話からは、採用規模の拡大は見込めない。厳選採用傾向は変わらず、内定が特定の学生に集中する傾向が続く。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・緊急雇用対策の施策で若干の増加はあるかもしれないが、景気の不透明さにより、変わらない。
やや悪くなる	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・雇用は確実に海外にシフトしている。グローバルに対応できる人材はいいが、そうでない人材は産業の転換を図らねば、日本の雇用は確実に縮小する。
		民間職業紹介機関（職員）	・季節要因もあるが求人数は増加傾向にある。ただし、一定層に偏っている傾向もあり、4月以降は減少する。
		民間職業紹介機関（支店長）	・3月末の契約終了者が前年同月とほぼ同数である。一方で新規のオーダー数は微増である。
悪くなる			